

# 環境活動レポート



対象期間 2024年4月～2025年3月

第12版作成 2025年6月20日

株式会社 前原建設

## 《 目 次 》 ..... 1

1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 対象範囲	2
6) 事業規模	2
7) 推進組織図	2
2. 環境方針	3
3. 環境目標	4
4. 環境目標の実績	4
5-1. 環境活動と取組結果	5
5-2. 次年度の取組内容	6
5-3. 次年度の環境目標	7
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
7. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

## 1. 事業概要

### 1) 事業者名及び代表者名

株式会社 前原建設  
代表取締役 仁田脇 篤

### 2) 所在地

本 社 〒880-0814 宮崎県宮崎市江平中町3番地8

### 3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 岩元 哲哉

### 4) 連絡先

連絡担当者 : 岩元 哲哉 (EA21事務局)  
TEL : 0985-27-2001  
FAX : 0985-27-2142  
E-mail : maehara@office.made.ne.jp

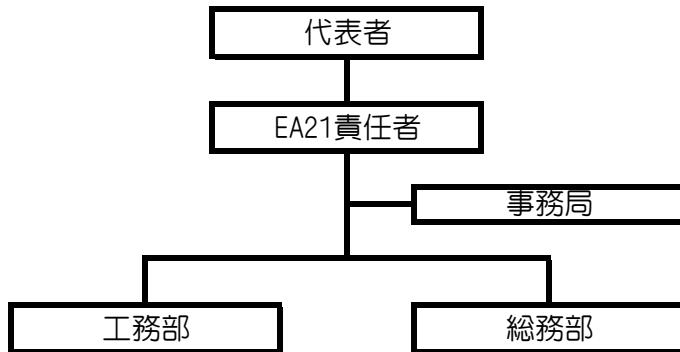
### 5) 対象範囲

- ・対象組織 .. 全組織
  - ・対象活動 .. 全活動
- 建設業（土木工事、とび・土工工事、舗装工事、水道施設工事）

### 6) 事業規模

項目	2021年	2022年	2023年	2024年	
従業員数	9	9	8	8	
工事等の件数	13	18	9	7	
事務所床面積 (m <sup>2</sup> )	250	250	250	250	
資材置場面積 (m <sup>2</sup> )	1,950	1,950	1,950	1,950	

### 7) 推進組織図



# 環 境 方 針

株式会社前原建設は、地域社会との調和を計り、  
豊かな自然の大切さを認識し、環境に配慮した  
事業活動を通じ環境保全に努めます。

## 活 動 計 画

- 1 弊社は、一般土木工事の事業活動を通じ環境問題を認識し、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
- 2 一般土木工事の事業において環境に与える影響を削減するために、次の事項に対して積極的に取り組みます。
  - ①電気使用量・化石燃料節減による二酸化炭素排出量の削減。
  - ②事業活動において排出される廃棄物の削減とリサイクル推進。
  - ③節水活動を通しての水使用量の削減。
- 3 関連する環境関連法規を遵守します。
- 4 新技術活用や創意工夫で効率的施工、環境に配慮した施工に努めます。
- 5 この環境方針は、全社員に周知徹底すると共に、一般に開示します。

制定 2012年 3月23日  
改定 2025年 3月 1日  
株式会社 前原建設  
代表取締役 仁田脇 篤

### 3. 環境目標

項目	単位	区分	基準値	中期計画		
			2021年4月～ 2024年3月 平均値	2024年	2025年	2026年
二酸化炭素	kg-CO2	全社	37,658	37,469	37,282	37,095
電気	kWh	全社	14,242	0.5%削減 14,171	1.0%削減 14,100	1.5%削減 14,029
ガソリン	L	全社	1,992	0.5%削減 1,982	1.0%削減 1,972	1.5%削減 1,962
軽油	L	全社	9,774	0.5%削減 9,725	1.0%削減 9,677	1.5%削減 9,628
一般廃棄物の削減	kg	事務所	86.4	86.0	85.5	85.1
建設副産物の再資源化	%	現場	95.0	再資源化量÷総排出量=95%以上		
水	m³	全社	55.0	0.5%削減 54.7	1.0%削減 54.5	1.5%削減 54.2
自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	現場	該当する環境活動計画の順守				

\*各年度は当年4月から翌年3月迄とします。

\*基準値は、2021年4月1日～2024年3月31日までの実績平均値を使用しています。。

\*自らが施工する土木建築物の環境性能の目標は、該当する環境活動計画の順守を目標とします。

\*化学物質を含む資材などの使用はありません。

### 4. 環境目標の実績

\*2024年4月から2025年3月までの1年間の実績は以下の通りです。

項目	単位	区分	目標値	(2024年4月～2025年3月)		
				実績値	達成率	評価
二酸化炭素	kg-CO2	全社	37,469	15,302	244.9%	○
電気	kWh	全社	14,171	11,005	128.8%	○
ガソリン	L	全社	1,982	1,432	138.4%	○
軽油	L	全社	9,725	2,301	422.6%	○
一般廃棄物の削減	kg	事務所	86.0	83.0	103.6%	○
建設副産物の再資源化	%	現場	95.0	100 (259.17t)	105.3%	○
水	m³	全社	54.7	49.0	111.6%	○
自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	現場	活動計画の遵守	遵守しました	—	○	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州エナジーの0.549kg-CO2/kWhです。

## 5-1.環境活動計画の取組結果とその評価

取組項目	活動内容	責任区	取組状況	評価
・電気使用量の削減	①こまめな消灯及びOA機器の省電力設定	総務部門	こまめな消灯、照明器具やエアコンの定期清掃などで省エネを図って目標達成となった。ただ、夏場にはエアコンの適温化が守られないときも時事あった。今後も省エネ活動を徹底する。	○
	②空調設備の適温(夏場は熱中症に配慮しながら適切な温度管理)設定			△
	③ブリード・カーテンの利用で、冷暖房効果の向上			○
	④照明器具・エアコン等の定期清掃			○
・化石燃料使用量の削減 ガソリン 軽油	①エコドライブ(アイドリングストップ、車間距離をとりながら加速・減速の少ない運転)を徹底する	全部門	化石燃料使用量は、受注工事減が少なかった為に減少した。特に、大型重機の使用が無かった為、軽油使用量が大幅に減少した。現場条件によって厳しい場合もあるが、次年度も活動を継続して、実施する。	○
	②エコドライブ(ふんわりアクセル「eスタート」運転の励行)			○
	③車両のエアコン使用を適切にする(燃費の向上)			○
	④建設機械等は、過剰な負荷を掛けない運転を実施(アクセル7割運動等)			○
	⑤重機の始業前点検を実施する。			○
	⑥現場への乗合わせ出勤を行う。			○
・一般廃棄物の削減	①コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピーに努める	総務部門	コピー用紙の裏紙使用や電子媒体で可能な物は対応して廃棄物の削減に努めているが、工事件数減少によりコピー枚数も減って目標達成となった。	○
	②電子回覧やメールレスファックス等を利用し、できるだけ紙を排出しない			○
	③資源物を再生利用できるように分別する			○
・建設副産物の再資源化率の向上	①建設資材発注時は使用数量を再チェックし、残余資材の発生を抑制する	工事部門	道路工事現場でコンクリート塊とアスファルト塊、少量の木くずが発生したが、全てが再資源材となった。	○
	②残余資材が発生したら分別して再利用を行う			○
	③現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする			○
・水使用量の削減	①定期的な漏水点検	全部門	現場搬送の水もなく、目標達成となった。次年度も、目標達成に向け継続して活動する。	○
				○
・環境配慮型工法の提案	①環境配慮型の建設機械を使用する	工事部門	建設機械及び小機材等は、排ガス対策型、低騒音型機械の使用している。今後も環境に配慮した施工を提案を実施する。	○
	②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工の実施			○
	③現場の環境上の緊急事態を想定し予防処置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う			○

## 5-2. 次年度(2025年度)の環境目標及び次年度の取組内容

取組項目	目標値	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	37,282 kg/CO <sub>2</sub>	①省エネ・省資源活動の推進
・電気使用量の削減	14,100 kWh	①こまめな消灯及びOA機器の省電力設定 ②空調設備の適温(夏場は熱中症に配慮しながら適切な温度管理)設定 ③アラート・カーテンの利用で、冷暖房効果の向上 ④照明器具・エアコン等の定期清掃
・化石燃料使用量の削減  ガソリン 軽油	ガソリン 1,972 L  軽油 9,677 L	①エコドライブ(アイドリングストップ、車間距離をとりすぎな加速・減速の少ない運転)を徹底する ②エコドライブ(ふんわりアクセル「eスタート」運転の励行) ③車両のエアコン使用を適切にする(燃費の向上) ④建設機械等は、過剰な負荷を掛けない運転を実施(アクセル割運動等) ⑤重機の始業前点検を実施する。 ⑥現場への乗合わせ出勤を行う。
・一般廃棄物の削減	85.5 kg	①コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピーに努める ②電子回覧やメール・レスファックス等を利用し、できるだけ紙を排出しない ③資源物を再生利用できるように分別する
・建設副産物の再資源化率の向上	95%	①建設資材発注時は使用数量を再チェックし、残余資材の発生を抑制する ②残余資材が発生したら分別して再利用を行う ③現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルする
・水使用量の削減	54.5 m <sup>3</sup>	①定期的な漏水点検
・環境配慮型工法の提案	環境活動計画の遵守	①環境配慮型の建設機械を使用する ②可能な限り、環境配慮型材料等を利用した施工の実施 ③現場の環境上の緊急事態を想定し予防処置を行い、対応手順を作成して事前の訓練を行う

## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

### 並びに違反、訴訟の有無

- \* 当社の事業に関する環境関連法規は、担当者が定期的に日建連のURLや建設協会情報等で確認しています。尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。
- また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟もありませんでした。
- 現場での遵守状況は、安全ハブホールや現場代理人会議等で確認しています。
- \* 当社の事業に関する主な環境関連法規は以下の通りです。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	順守
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	該当なし
騒音規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし
振動規制法	特定建設作業の実施の届出	該当なし

## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し事項	前回指示の内容	今回の評価結果
	前回指示の取組結果	代表者による指示内容
① 環境目標及び環境活動計画について	・現場条件によっては、厳しい部分もあるだろうが、常に省エネを意識して、問題発生時には、分析をし、是正処置を講じる事。	・目標値を下回る項目が多かった。 ・軽油は工事数、内容に大きく影響を受けるため、不必要的重機の取り回しが無いよう注意を払う。
	・前年度に比べ、公共工事件数減少もあり全体的に削減。 ・電気量使用が夏冬に多い傾向がある。	・現場条件によっては、厳しい部分もあるだろうが、常に省エネを意識して、問題発生時には、分析をし、是正処置を講じる事。
②環境関連法規等の取り纏め及び遵守状況について	・特に指示なし	・環境関連法規に限らず、法令は遵守しています。又、関係当局や地域住民からの苦情や訴訟などもありません。
	・環境関連法規に限らず、法令は遵守しています。又、関係当局や地域住民からの苦情や訴訟などもありません。	・コンプライアンスは最重要事項として意識して取組む事
③ 実施及び運用について	・特に指示なし	・特に問題は発生していません。
	・特に問題は発生していません。	・特に指示なし
④ 取組状況の確認及び問題点の是正について	・問題の原因解明と問題の放置しない事。	・特に問題は発生していません。
	・特に問題は発生していません。	・問題の原因解明と問題の放置しない事。
⑤ 環境コミュニケーションについて	・今後も積極的に参加する事。	・年2回、ボランティア活動に参加しました。
	・年2回、ボランティア活動に参加しました。	・今後も積極的に参加する事。
⑥ 環境方針について	・変更は考えていない。	・大きな問題はなかったので、環境方針の改訂は行わなかった。
	・大きな問題はなかったので、環境方針の改訂は行わなかった。	・変更は考えていない。
⑦ 実施体制について	・現状を継続する	・変更は考えていない。